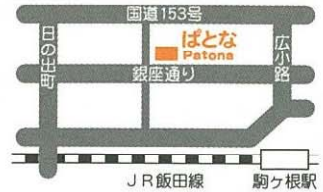


こまがね市民活動支援センター

ぱとなだより

Patona

第4号
2010.8



駒ヶ根市中央16番7号
Komagane-shi, chuo, 16-7
TEL : 82-1150 FAX : 82-1151
Mail : kmcenter@cek.ne.jp

高砂園を拠点に楽しく活動

【駒ヶ根市身体障害者福祉協会】



高砂園を支える皆さん (P-2)

地域の川に親しみ、川を大切に

【精進川河川愛護会】



みんなで楽しく川清掃 (P-2)

野営体験で青少年健全育成を

【日本ボーイスカウト長野県連盟駒ヶ根第一団】



協力しあって食事の用意 (P-3)

区の紹介④

【中沢区】



中沢区民大運動会 (P-3)

区の紹介⑤

【北割二区】



茅の輪づくり (P-4)

ぱとなからのお知らせコーナー

- 「ぱとな」マスコットキャラクター募集中!!
シンプルで明るく、親しみのあるキャラクターを、市内にお住いの方、通勤・通学をされている方なら、どなたでもご応募できます。
応募締切: 8月31日(火)です。
お待ちしております。
- こまちゃんエコポイントについて
【天竜川流域侵略植物駆除8.01 大作戦】
8月1日(日) 1人150ポイント
特定非営利法人天竜川ゆめ会議主催
【せせらぎサイエンス(水生生物調査)】
8月22日(日) 1人100ポイント
ねずみ川愛護会主催

高砂園を拠点に楽しく活動しています

駒ヶ根市身体障害者福祉協会



北原和雄さん

「協会が管理運営する障がい者センター高砂園を拠点として、楽しく活発に活動しています。最大の課題は会員の減少です。個人情報保護のため、障がい者についての情報が乏しく、新入会員の確保が難しい点です。会に入れば、たくさんのメリットがありますよ。」と北原和雄会長。協会は一九五〇年四月、「障がい者の自立と社会参加の推進」を目的に発足し、地域の公民館や桜木町の福祉センターで活動を始めましたが「会場が障がい者の利用するには不便で、障がい者による障がい者のための拠点づくりが長年の会員の悲願でした。」八二年、会員と「手をつなぐ親の会」が基金二百万円を拠出したことが行政を動かし、中原前市長や当時の宇田福祉事務所長の協力で、建設することができました。

「県下で唯一の独立した建物でバリアフリー。福祉関係者の注目を集めました。」運営は当初市社協でしたが、会員の中から、自分たちで運営したいとの気運が高まり、二〇〇三年NPO法人に組織改編し一年間の試行期間を経て、

同会が高砂園の指定管理者となり、管理委託事業を始めたのは〇六年度から。

「笑顔でやさしく、思いやりの心で」をモットーに、「規制は最小限に、利用は最大限に」と会員ばかりでなく、障がいのある人もない人もだれでも利用でき、人々が集い交流できるようにと願い、門戸を広げました。

毎月、身障協情報を発行、仲間づくり、生きがいづくりを目的にしたデイサービスグループにはパソコン、カラオケ、ハーモニカ、料理と幅広く十九グループ。手話サークル、手をつなぐ親の会など利用する福祉団体は十八団体。大小合わせて六室、四十台収容の駐車場も完備され、随時、不定期で各種団体が利用しています。

「NPOとなったことで、一段とフットワークが良くなり、最近トイレを洋式に改修したり、カラオケ設備も最新式にし、さらに流行の足湯も設置しました。一般の利用を歓迎しています。」福祉団体以外の一一般の施設利用料は一グループ五百円。飲食は自由。「場所も良く、駐車場も広いので、一般の方もどんどん利用してください。障がい者手帳をお持ちの方はぜひ、会員になって、一緒に活動しましょう」と呼び掛けています。

代表・北原和雄さん
事務局・障がい者センター高砂園
電話・八二二二〇二二
会員・四百二十五人

地域の川に親しみ、川を大切に

精進川河川愛護会



池上善朗さん

「清流が蘇り、夏には梅花藻の白い花が水面を彩り、アマゴの魚影が涼を呼んでいきます」と池上善朗会長。七月十一日、会員ら二十人がジョレンや草かき、ごみかきなどを手に三々五々集まり、川に入り、梅花藻に絡んだごみを取り除いたり、ガラスやせともの片を拾い集めていました。川にせり出した歩道の草取りをしていた会員の一人、杉本幸治市長は「子どもの頃、川をせき止めて泳いだり、魚獲りをしました。祖父たちが子どもがけがをしないようにと、川底のガラスを拾ってくれました。会員の地道な努力で昔のような美しい川になりました」と話してくれました。

一九九四年、小学生の夏休みレクレーションの一環として、子どもたちが川に親しみが持てるようにと、会を立ち上げ、河川清掃に取り組みことになりました。活動は月二回の河川清掃、稚魚の放流、沿線の花壇作り、地域美化啓発活動など。

代表・池上善朗さん
事務局・市内上穂栄町七一二二
(森敏彦さん宅)
電話・八三二二四一三三
会員・三十人

「親たちがごみや空き缶を拾ったり、ヘドロを上げるのを見て育ちました。そのため『自分たちの川』という意識が強く、川清掃には自発的に多くの人が出てくれます。昨年は会でアマゴ二百匹を放流しました。子どもたちは網を持って魚を追いかけ、釣り糸を垂れる大人もいます。川がきれいなになり、川遊びをする子どもが増え、通行人が川を覗いて、魚を見えています」と池上会長は嬉しそうに話してくれました。

同会では水辺の環境整備と水生動植物との共生を軸に魚道を作ったり、「蛍を飛ばそう」という大きな夢に向かって、先進地視察するなど、新たな活動を開始しました。「町部を流れる川に蛍が乱舞するようになれば最高です。下水道が整備され水質が格段に良くなりましたが、それでも上流から桃ならぬたくあんが流れてきたり、空き缶やガラス片は拾っても拾っても出てきます。私たちの生活に恵みと潤い、安らぎを与える身近な流れの環境を守ることで、地域の美化意識をさらに高め、本当の意味で豊かさや清潔さを実感できる街づくりにつなげていきたいらと思えます」と池上会長。同会では「一緒に活動しませんか」と会員を募集しています。

野営体験で青少年
健全育成を

日本ボーイスカウト
長野県連盟駒ヶ根第一団



小林範夫さん

「団活動は一般の方の目に触れることが少なく、あまり知られていません。活動をを通して、自然を学び、友情や協調の精神を育てることが中心です」と小林範夫団委員長。

同団は小学一年から三年までのビーバースカウトが三人、五年生までのカブスカウト八人、中学三年までのポースカウト十四人、ベンチャースカウト(高校生二人、十八歳以上のローバースカウト一人、指導者十六人、団委員二十人で構成され、ボーイスカウト日本連盟の教育規定に沿い、子どもの個性と成長を十分に考えたカリキュラムで実施しています。

具体的には太田切川河川敷の山林で、テントの張り方、炊事や工作、ロープの結束などキャンプ生活の基本、自然観察などで、自立心や創造力、共生する力を養っています。キャンプは年四回行い、冬の耐寒キャンプでは厳しい自然の中で生きる力

を身につけます。三月には夜中の十時から翌朝まで辰野から駒ヶ根まで約五十キロを歩き通すオバーナイトハイクも恒例の活動です。「寒さや足の痛みに耐えて、自分との戦いで忍耐力を養います。活動には指導者や役員が万全の体制で見守ります。物の豊かな便利な暮らしの中で、キャンプという不自由な生活を体験することで、衣食住の大切さ、生活の知恵を学ぶことができます」

ボランティアも活動の柱の一つ。毎年九月の「ボーイスカウトの日」には奉仕活動や地域貢献活動に励んでいます。今年は九月二十日に「地球まるごとキレイにしよう」をテーマにごみ拾いを実施します。

ボーイスカウト運動はイギリスから始まり、現在百六十九国、約二千八百万人が参加。国際的な社会教育団体として駒ヶ根第一団が結成されてから半世紀、日本代表として、世界大会に参加するなど輝かしい歴史もあります。卒業生は五百人を超え、市内外の政財界で活躍している人も沢山います。

「広く、団活動をPRし、ボーイスカウトや指導者を募りたい。関心のある人は連絡を」と呼び掛けています。

代表・小林範夫さん
事務局所・市内赤穂一〇五四一一三
(小池譲さん宅)
電話・八二一六一六五
会 員・六十二人

区 の 紹 介 ④

「中沢区」

「中沢大通り」開通で、
区民の意識に変化が



宮下善行さん

中沢地区の十一区が統合し、中沢区が誕生し、四代目区長となつた宮下善行さんは一準

備不足で統合しましたが、保健補導員や民生児童委員など役員は旧区体制のまま、統合四年目の現在も旧体制から新体制への過渡期で区民に混乱もあり、区への補助金も段階的に減額されました。中沢全体の課題、例えば道路問題などは統合効果も出ています。

中沢の玄関口、新宮川岸から中沢中割まで「中沢大通り」が一年前開通。「中沢地域づくり委員会」が地権者の協力でヘアピンカーブが解消され、入口が開けました。このことが区民の意識変化につながり、わずか三区画ですが、中沢初の住宅団地も誕生しました。

中沢はかつて伊那から赤穂、中川村、大鹿村に通じる交通と文化の要所で、医院や商店が多かったと聞きます。「明治時代には自分たちの子弟が学ぶ中沢学

校を自力で建て、発電所も建設しました。自立心が強いのが中沢気質です。中沢出身者に警察署長や学校長、郵便局長が多いですよ。」

八月二十八日は中沢地区年番で第二十二回天竜ふるさと祭りが開催されます。今年から「筏下り」に変わり「ラフティングボート」が登場します。ゲーム性を持たせ、観客が楽しめるイベントに工夫します。目玉の煙火大会は二尺玉やワイルドスターマイなど約二百発が夜空を彩ります。演芸大会や魚のつかみ取りなど昼間のイベントも盛りだくさん計画しています。

中沢地区には寺や神社が多く、伝統の祭事も大切にしています。「大曾倉の豊年踊り、中曾倉の銭太鼓など貴重な民俗芸能も中沢の宝です」。

蔵沢寺のしだれ桜、桃源院の桜、中曾倉の芝桜、こぶしの里、花桃の里、ササユリの里など花の名所や分杭峠の気場など観光資源が多いのも自慢です。

昨年江戸川大学の学生三十人が中沢の実態調査を行いました。調査に基づき、過疎対策や地域活性化に向けた具体的な提言が予定されています。「若い感性で中沢を見て、中沢の魅力、可能性を引き出してくれるのでは」と期待しています。

区 長・宮下善行さん
副 区 長・竹村徳典さん
会 計・田村 巴さん

区紹介 ⑤

「北割二区」

光前寺や水仙が観光スポットに



正木公翁さん

南はねずみ川から北に約一キロ、国道一五三号線から西へ光前寺まで約四キロと東西に長い

区です。

区内には赤穂小学校があり、赤穂中学校が隣接されており、通学児童生徒が多く集まる地域でもあります。農道から西は人家が少ないので、一人で長い道のりを歩く児童の安全確保を目的にこの区を守る安心の家」を集中的に増設しました。

市のキャッチフレーズの「アルプスがふたつ映えるまち」の言葉通り、西駒ヶ岳と仙丈ヶ岳が一番きれいに見える地区だと、区民は自負しております。

今年光前寺が開創一五〇年に当たり、ご開帳とも重なり、市と地元がタイアップして「ふれ愛いご縁」門前横丁が開催され、多くの観光客で賑わいました。十数年前から始まった光前寺地区の「水仙の里」づくりも年二回の草刈り、十月の植え付けなどに小学生から高齢者まで約百人が参加し、植え付け区域

も拡大、花の季節はアマチュアカメラマンの人気の撮影スポットになります。光前寺のしだれ桜も春の宵、幽玄の世界で観桜客を魅了します。

また、中央道西側にはサラダコスモ、ダイワオーシャン、平和産業など優良企業も進出し、雇用の創出や地区の活性化にも貢献しています。

来年は五十鈴神社の祭典年番に当たり、北割二区が責任当番区です。大鳥居のしめ縄に使う稲わらの手配など今年から準備を進めています。区民の総力を結集して、素晴らしい祭典にしたいと思えます。

六月二十七日には今年の年番の上穂町区と協力して茅の輪くぐりの神事を挙行しました。直径三杯余の茅の輪や鳥居に巻き付ける力やは総重量約一トになり大仕事でしたが、無事やり遂げました。

現在、北割二区の全戸数は八百七十八戸ですが、区に加入しているのは六百七十四戸、加入率七六・七七%で、ご多分に漏れず、区への未加入者の増加が課題です。区費の徴収が困難のため、区費の値上げもやむをえないのではという議論も起きています。全区民に平等に負担をお願いしたいと考え、区政研究会を開催し、解決に努めています。

区長・正木公翁さん

副区長・総務・倉田敦臣さん

副区長・会計・清水丈明さん

連載

「ぱとな」への想い ④

こまがね市民活動支援協会
会長 鈴木明

使命は、協働のまちづくり

市民活動支援センター設立準備会の組織が大きくなると、意見の数も多くなり、議論の迷走もありましたが、理想の形を求めて進めてゆきました。

「ぱとな」の使命を次の二つにしました。

まず、市内で活動する市民グループは、百余団体があり、団体間の連携でまちづくりが出来れば相乗効果が出ます。特に積極的に活動する人や団体のお手伝いを行い、「まちづくりの仕掛け人」の発掘をします。

次に、区は十八区あります。お互いにこの街に住むもの同士が心通わせ、協力しあつてこそまちづくりが出来ることが確認し、自治会の重要性を認識しております。そこで、市民パワ―を結集できる組織、すなわち自治会組織がキーを握っており、まちづくり組織の第一線は隣組です。隣組への全戸加入の方策に区関係の皆様と共に挑戦すべきと心しております。

市税を納めさえすれば行政サービスは当然受けられると言つ、理屈ではなく、自ら参画することの重要性を知ってもらう活動を致します。

(次号へつづく)

編集後記

長い梅雨が終わり、猛暑の日々が続いています。照りつける太陽と共に、蝉の声が夏の風情を醸し出しています。小学生の頃、夏になると蝉取りや魚釣りが私の日課でした。蝉の幼虫を取ってきたのは、夜、蚊帳にかけておきました。朝になると蚊帳の中で「ジージー」とたくさん蝉が大暴れ。母に叱られながら家の中を飛び回った記憶があります。そんな親のノスタルジーを息子に体験させようと、納屋から蚊帳を出し、蝉を捕まえて一晩過ごしました。朝になると、賑やかに蝉が羽ばたき、幼い頃の自分を見るように息子ははしゃいでいました。ところが、それを見ていた娘は不機嫌な顔をして見つめています。どうしたのかと聞くと「お父さん、蝉は三日しか生きられないんだから逃がしてあげて」と涙ぐんでいました。思わぬ娘からの命の大切さを教えられた一時でした。

ぱとなは、十月で一年を迎えます。今年度は、さらに市民のみなさんがご利用しやすいように考えたり、ご参加いただけるイベント等を考えています。多くのご意見、ご提案をお待ちしております。

【事務局長 宮澤】

発行日二〇二〇年(平成三十二年)八月
発行者
こまがね市民活動支援センター